

# NEWS!

Vol. 42-1  
No. 207  
令和5年新春号  
編集・発行  
松浦機械製作所

## 謹賀新年



明けましておめでとうございます。

昨年、ウイズコロナでの社会生活・経済活動が通常化していく中で、製造業にとっては継続的な需要があり多忙な一年となりました。しかしながら、ロシアによるウクライナ軍事侵攻の影響を世界が大きく受けた1年でもありました。これにより電力需給の逼迫による原油・天然ガス等のエネルギー価格の高騰、インフレ抑制のための政策金利の上昇、加えて食料品価格の高騰など世界的に物価の上昇が見られました。日本でも大幅な円安の進行と相まって輸入価格の上昇を余儀なくされ貿易赤字を脱することが出来ていません。中国のロックダウンの影響から半導体不足や電気品を主とする部材の長納期化が更に拍車がかかり、製造業はストレスの溜まる中でやりくりしながらの生産活動を強いられました。また中国では習近平体制が三期目に入り、中台問題をはじめ米中の緊張関係もさらに強まりました。世界情勢はまさに混沌としております。今年は、安定化に向かって欲しいと切に願う次第です。

日本工作機械工業会は、年初掲げた年間総受注額を1兆6,500億円から期の後半に1兆7,500億円に上方修正し、設備投資は非常に活発に推移しました。

そんな環境下でマツウラは、下半期から海外出張を含めた本格的な活動を展開、4年ぶりに開催された米国・シカゴのIMTS2022、ドイツ・シュトゥットガルトのAMB、日本でのJIMTOF TOKYO2022のリアル展示会に出展し、久しぶりの展示会に大勢の来場者があり、活気があってお陰様でどれも盛況な展示会となりました。また、ハイプレシジョンリニアモータマシンLF-160と主力ラインナップ5軸制御立形マシニングセンタMX-520/850のモデルチェンジをはじめ、新型MX-330/420とMAM72-35V新機種MAM72-42Vを初公開、加えてハイブリッド金属3DプリンタLUMEX Avance-25のアップデートと盛り沢山の市場投入を実施しました。その他、東北地方の強化を目指し仙台出張所を開設、機能アップしたGibbsCAM 2022のリリース、効率的な工場運営に役立つ情報を動画で確認することができる会員制動画ストーリーミングサービスMyMatsuuraの提供など、幅広く展開しました。

さて新年を迎えるにあたり、これまでになく潤沢な受注残を抱えながら、まずは部材調達に注力し出来る限り効率よく機械を出荷しつつ、一方で更により良い機械を作り込むことにも重きを置いて活動して参ります。機械の無人化・省人化のニーズはロングレンジで底堅く、GXやカーボンニュートラルの対応も要求されています。マツウラは、この変革の時代に対応し、引き続きお客様に選んでいただけるよう尽力して参ります。

本年も格別のお引き立てを賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

代表取締役社長 松浦 勝俊

## 日本のヘソ 福井 No.205



福井は日本のドマン中「日本のヘソ福井」第205回目は「ミラカナ」の話です。ミラカナとは福井の未来をかなえるクラウドファンディングとして、福井新聞社、福井銀行、福邦銀行の県内企業3社とクラウドファンディングサービスを事業としているREADYFORが連携して実施されているものです。福井県内におけるまちづくり、モノづくり、芸術、福祉等の地域活性化、地方創生に寄与するチャレンジングな活動に対し、「福井を盛り上げたい」という想いをもつ人々が資金調達を行うことができます。出資受付を終了したプロジェクトも含め110

件以上のプロジェクトが特設ホームページ上に掲載されています(2022年12月時点)。掲載されていたプロジェクトについて一部紹介します。

「敦賀と美方」の高校生で1日限りの合同文化祭がしたい!というプロジェクトでは、敦賀市と美方の高校4校の高校生達が、コロナ禍で文化祭を実施できず他校と接点を持つことができなかつた心残りを晴らすため、学校の垣根を越えて盛大に合同文化祭を実施したいというもの。目標金額50万円を大きく超え、約124万円の支援にて成立していました。

ミラカナへの応募条件は福井にまつわる活動を行っている方などなたでも応募可能とのこと。福井県で新しいことをやってみたい、もしくは新しいことをやっている人を応援したい、という方は一度ミラカナのホームページをご覧になってはいかがでしょうか。

# ユーザーを訪ねて

No.192

## 株式会社 ISS アートマーク： 5軸機活用による効率化でハード

今回のユーザーを訪ねては、山陽自動車道の福山東ICから車で15分の距離にある株式会社ISSアートマークです。同社では金属や樹脂の加工を手掛けており、アルミをはじめとする非鉄金属の加工や、樹脂溶接において高い技術力を誇ります。特に半導体分野で豊富な納入実績を持ち、半導体製造に欠かすことのできない洗浄装置の部品加工を得意としています。同社は1987年に『有限会社アート・マーク』として設立され、その後『株式会社アートマーク』へと組織変更されます。2021年にISSリアライズ(旧:井上特殊鋼)との資本提携に伴い、現在の社名となりました。鉄系の加工品を得意とするISSグループ内において、非鉄金属や樹脂の加工という独自のポジションから、製造機能の一翼を担っています。取材には広崎哲郎 常務取締役、ならびに安井克彦 第一製造部長にご対応頂きました。広崎常務は学生時代に物質科学を専攻され、1997年に当時の井上特殊鋼に入社されます。入社以来20年以上、営業一筋でキャリアを積み上げられ、大阪や山陽、東海など様々なエリアのプロック長を歴任されます。2021年1月、同社のISSグループ加入に伴い現職に就任されました。安井部長は機械工学科を卒業した後、2000年に同社に入社。以来、マシニングセンタや旋盤、複合加工機など様々な機械のオペレーションに携わった経験をお持ちです。



▲ 企業外観

### 創業当時を偲ぶ社名

同社は自動車整備士の資格を持つ先代社長が1986年に創業した企業で、創業から間もなくは個人での樹脂加工事業を営んでいました。同社の成り立ちについて広崎常務にお話を伺いました。「創業当時は主に工業用の銘板を製造していました。『アートマーク』という社名も、銘板メーカーでは一般的な『〇〇マーク』という屋号に、電話帳の索引で最初に並ぶように『ア』から始まる単語を組み合わせたことに由来しています。創業から暫くは銘板や彫刻を主とした事業を展

開し、徐々に非鉄金属や樹脂の加工技術を蓄積していきました。現在の主力である半導体分野に参入したのは、俗に『インターネット・バブル』と呼ばれる1990年代から2000年代初期のタイミングです。以来、半導体関連でのお取引先が次第に増え、現在に至ります」

### 多品種少ロットを支えるマツウラ機

同社では現在、立形マシニングセンタMC-1000VFが2台、5軸制御立形マシニングセンタMX-520が1台、MX-850が2台、計5台のマツウラ機が活躍しており、主にアルミ加工品の多品種少ロット生産に役立てられています。同社とマツウラのお付き合いは1989年に設備した立形マシニングセンタMC-510Vから始まりました。当時のエピソードを安井部長に伺いました。「MC-510Vは私が入社して最初に扱った機械です。また私にとっては初めて触れるマシニングセンタでもありました。そのため、使用感について深く言及することは難しいですが、マシニングセンタという機械に対して、自動で動いて綺麗なモノを加工できる、率直に面白い機械だと感動したことを記憶しています」その後、同社ではFX-5を1台、MC-1000VFを2台と立形マシニングセンタを増設します。「高速回転主軸を備えるマツウラ機は、当社の得意とするアルミ加工との親和性が非常に高いです。MC-510Vでの実績もあり、立形の増設を検討する際は自然とマツウラ機を選択するようになりました」と広崎常務。



▲ 広崎哲郎 常務取締役

### 5軸機による工程集約

2011年には生産効率の向上を目指し、同社初の5軸機となるMX-520を設備します。「それまで立形で対応していたワークの工程集約を目的として、5軸機の設備に至りました。5軸機による恩恵は大きく、立形では2工程を費やしていたワークも1工程に集約することができるようになりました。また、より複雑なワークに対応するうえでも5軸機の存在は大きな武器となっています。MX-520で確かな実績があったため、その後、同じく5軸機のMX-850を2台設備する運びとなりました」と広崎常務。「立形から5軸機への移行はスムーズに進みました。当社では割り出し加工をメインに行っているため、同時5軸加工からスタートする場合と比べ、移行にあたってのハードルは低かったように思います」と安井

## ワークから脱却

部長。自身を『マツウラファン』と称する広崎常務は、これまで設備してきたマツウラ機について次のように評価します。「創業当時から一貫して当社がお客様から評価頂いている点は、煌めくような加工面の仕上がりの良さです。最新の5軸機はもちろん設備から25年以上経過したMC-1000VFでさえ、当社が求める加工面に仕上がっていることから、マツウラ機の性能の高さが伺えます」広崎常務の言葉どおり、同社では引き続きマツウラ機の増設を予定しており、2023年夏にはMC-1000VFの後継機として、2台の立形マシニングセンタVX-1000の設備を控えています。



▲ 工場内のマツウラ機

### GibbsCAMの活用で広がる対応力

同社はマツウラが提供するGibbsCAMのユーザーでもあります。「以前は旧式の他社製CAMを使用していましたが、多様化する顧客ニーズに対応するためCAMの増設が必要となりました。創業当初と比べて会社の規模も大きくなり、データを扱えるスタッフが増えたことも増設を後押しした要因です。既設のマツウラ機との相性を考慮しGibbsCAMを選択しました」と安井部長。現在、同社では5シートのGibbsCAMを設備しており、近く6シート目の増設も予定しています。複数のCAMを活用する利点について、広崎常務は次のように語ります。「量産に重きを置く場合は複数のCAMを設備するメリットは小さいでしょう。しかし当社のように多品種少ロットを強みとする企業では、複数のCAMで平行してデータを作成することで、対応できる仕事の幅が格段に広がります。マツウラ機をリピートしている背景にはGibbsCAMを上手く活用できていることも大きく影響しています」

### 『自社に見合う仕事』を見極める

取材の終わりに同社の展望について伺いました。「現在、

### 株式会社ISSアートマーク 概要

本 社 〒720-2113  
 広島県福山市神辺町旭丘51番地  
 TEL 084-960-1020  
 FAX 084-965-1225

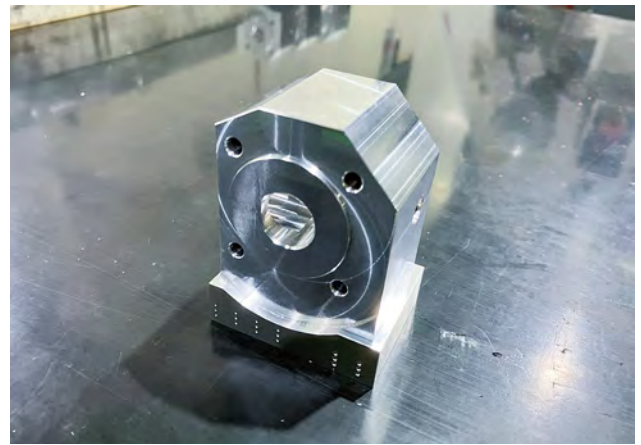
代 表 者 代表取締役社長 井上寿一

創 業 1986年2月

従 業 員 数 49名

事 業 内 容 アルミなどの非鉄金属加工、樹脂材料の溶接加工

主力となっている半導体分野については今後も必要とされ続ける領域だと考えています。既存顧客の多様化する要求に高い次元でお応えするため、より良いモノづくりに邁進していきます」と広崎常務。また、同社では既存領域に留まらず新規領域の開拓にも注力することです。「当社の得意とする非鉄金属の加工技術を活かして、食品や医療などの分野で付加価値の高いモノづくりに取り組みたいと考えています。新規領域の開拓においては『自社に見合う仕事か否か』を見極めることを意識しています。販路の拡大を図ることは企業にとって重要です。しかし、不得手な領域に闇雲に進出してしまえば、現場の作業者も疲弊することになります。自社の強み、当社の場合には非鉄金属加工のノウハウを活かすことのできる仕事を見極め、企業が潤うことを念頭に置いた事業開拓に取り組んでいきます」と広崎常務。



▲ マツウラの5軸機によるアルミ加工品

\*\*\*\*\*

「モノづくりへの要求は高度化し続ける中、昔ながらのハードワークでカバーすることが難しい時代になりました。限られた時間で如何に成果を上げるかが、今後の製造業の最重要課題です。当社では今後も、より良い設備を取り入れることで生産性の向上に繋がりたいと考えています」と広崎常務。インタビューと工場風景の動画は、記載のQRコードを読み取り視聴頂くことができます。また、当社ホームページでも公開中です。ぜひご覧ください。



# After JIMTOF2022 出展レポート

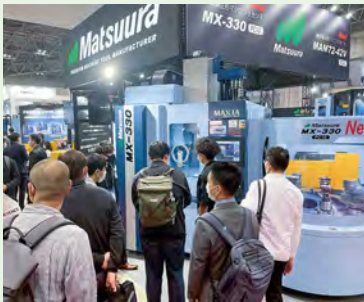
2022年11月8日(火)～13日(日)まで開催された第31回日本国際工作機械見本市JIMTOF2022。4年ぶりのリアル開催となる本会は、会場全体へ140,000名以上が来場し、活況を呈していました。また、マツウラブースへお立ち寄り頂いたお客様に心より感謝申し上げます。

当コーナーでは、JIMTOF2022の出展内容をレポートいたします。



▲常に注目度の高かった新型MAM72-42V PC32 ▲MTD CNC様のYouTube撮影取材

## 5軸+マルチパレットシステムによる自動化・無人化の提案 ～マツウラの考える最新の取り組み～



MX/MAM boothでは、最新機種のMAM72-42V PC32やMX-330 PC10の実機を初披露。特にMAM72-42V PC32は新規開発のマツウラオペレーティングシステムに触れて操作できるように展示し、常に注目的となっていました。

MX-330 PC10では20cm角の素材から5cm厚の産業用プレートを削り出す重切削加工のデモを実施。見学するお客様より「マツウラのマシニングセンタはアルミ加工に優れていると聞いていたが、鉄もこんなに加工できるとは知らなかった」との感想を頂きました。また、素材を突き刺すように加工するスロット加工のデモ中には、興味津々に機械の近くまで寄って見学され、その加工方法に驚く方を多く見受けられました。

ブース内には新機能に関するパネルを随所に配置。マツウラが「お客様に選ばれる理由にこだわる」を軸に開発してきた5つの要素(安心・簡単・精度・自動化・環境)に対して、具体的な機能を紹介しました。

- ・Matsura Remote Monitoring System (簡単)
- ・クーラント管理システム(自動化)
- ・省エネ機能、消費電力削減による環境対応(環境) …他、多数展示。

マツウラの5軸機を活用した提案に対し、お客様より「マツウラの5軸であれば安心して自動化を導入できそう」「自動化・無人化を導入検討する良い機会になった」との声を多く頂きました。



▲造形中のLUMEX機内をモニターでライブ中継 ▲出展者ワークショップ会場で事例紹介

## 新規出展サンプルワークと活用事例で新たな活用方法をご提案 ～金属3Dプリンタによる最先端のモノづくり～



LUMEX boothでは、今回初出展となるサンプルワークを多数展示。最新の造形事例やユーザ実例を通じて、AMの加工プロセスを段階に分けて展示することで、LUMEXを用いたモノづくりをご来場の方々にイメージ頂き易くしました。また、造形サポートにテストピースを組み込む手法など新たなアプリケーションも展示し、LUMEXの更なる可能性を紹介いたしました。

## 学生をJIMTOF2022に招待

2022年夏季インターンシップに参加頂いた学生と2023年入社予定の学生をJIMTOF2022に招待しました。マツウラブースの他、会場全体を見学し工作機械業界の魅力を体感して頂きました。参加した学生から「ここに世界の産業を支えている各社の製品が集まっているのだと思うと非常にゾクゾクしました」などの感想が寄せられました。



## オリジナル動画コンテンツのご紹介

DX推進の一環として、マツウラでは様々な動画コンテンツを発信しております。本誌では、その一部をピックアップしてご紹介いたします。ぜひQRコードからアクセスいただき動画をご視聴ください。

### 工場の自動化を簡単に

#### 誰でも条件分岐マクロが作れちゃう マツウラ営業マンによる徹底解説動画



マツウラの若手営業マン達が工場の自動化を進める第一歩となる「条件分岐」について解説。条件分岐に用いる「マクロプログラムとマクロ変数」の基本や、P+を用いた「条件分岐マクロ」の作成実演など全3編でお届けします。

### これでAMのものづくりは完璧

#### 金属3Dプリンタで絶対に おさえておきたい基礎プロセス



「金属3Dプリンタで造形したものがそのまま最終製品として使えるの?」「どんな形状でも作れるの?」そんな疑問を解消するのがこの動画。金属3Dプリンタをつかったモノづくりで必須となるプロセスを詳しくご紹介いたします。



取締役 松浦 悠人



「理想の上司ってどんな人?」という質問よりも、「嫌な上司ってどんな人?」という質問の方が多くの例が出せるような気がします。私の個人的な考えですが、上司の心構えは「好かれなくていい、嫌われるな」です。嫌悪の感情が生まれると、あらゆる発言・指示が部下のストレスに繋がり、何をしても不和が生まれます。そして、その状態からの脱却は非常に困難です。だから、まず嫌われない心掛けが大前提だと思うのです。

部下とうまく付き合う方法、どんなビジネス本にも書いてあるのは「人の話を遮るな」「昔話をするな」ですね。身に覚えがあるのなら今すぐにやめるべきでしょう。部下と明るくコミュニケーションを取る上司こそ理想的だ。否定はしません。しかし、機嫌がいい時はいいけど、

悪い時は悪い。これならどうでしょう。相談の度に顔をうかがうのは面倒です。自分は明るく喋りかけているという自負があっても、機嫌のムラを周りは面倒に感じているかもしれません。もっと気を付けるべきことは相手を絶対否定しないことです。ミスは簡潔に伝えて終わる。追及しない。直してほしいところが出たら、こうしたほうがいいと”自分は”思うと伝える。そして、何故その方がいいと思う理由を伝える。自分の考えとの相違を述べて、相手の考えが間違っているかのように言わない。「嫌われるな」と聞いて、部下に指導できなくなると考える人もいますが、結局、全部伝え方の問題でしかないはず。

マイナスをプラスで補おうとするのではなく、マイナス、つまりNG行動を徹底的に無くす。こんな聖人君子のようなことを書いておいて、私も完璧ではないのでまだまだ精進あるのみです。ただ、若い世代の代表として一石を投じてみました。今後もこのように好き勝手に駄文を書かせていただきます。本年度も何卒よろしく願います。



## 海外ユーザーインタビュー



### — Schwichtenberg社 ドイツ —

#### LX-160 : 絶対的な精密さ&無人運転



医療・航空宇宙産業向けで受託加工を行う Schwichtenberg 社は、2台の5軸リニアモータマシン LX-160 PC42 を含む4台のマツウラ機を設備しています。

188本のツールマガジンと42枚のパレットシステムを搭載した LX-160 PC42 の導入後、実感したのは安定した精度でした。温度変化の激しい環境下でも精度は安定しており、公差内で仕上げることが出来ます。また、高い生産性を持ちながらコンパクトに設計されている点も高く評価しています。

- 「自動運転中に工具破損があっても自動で工具が交換され生産を継続出来ています」
- 「日本のマツウラの本社工場を見学した際、手間のかかった緻密な作業に驚きました」
- 「私たちはマツウラにとっても満足していますし、これからもマツウラを頼りにしていきます」

動画内ではより詳細な使用感やマツウラの印象について語られています。

## シングルorダブル 期待に応える



社長 松浦 勝俊

メーカーの常としてお客様の声に真摯に耳を傾けることは、言わずもがな大変重要です。私は、国内外を問わず展示会に出席し定期的な各地域のお客様やディーラーのところにお邪魔しています。その折、色々なお話を聞いたり実際に現場を見たりして様々な

ご意見を頂戴する機会があります。その中には、お褒めの言葉をいただくことも多いですが、機械の不具合やサービスの受け答えから対応時間まで色々厳しいご意見をいただくこともあります。それらを持ち帰り、褒められたことも皆に伝えますが、厳しい意見についてどう対応するか対策案を検討するわけです。しかし、これらに対し全てレスポンスよく対応し実行出来ているかと問えば、正直必ずしもそうではありません。

生産財である工作機械は、加工精度良く安定して稼働し、止まったら即サービスして早期復旧することをお客様はメーカーに期待しています。メーカーとしてお客様の期待値以上の価値を提供することを目的として皆で日々業務に励んでおりますが、人が関わる故に

時に思いがけない不具合が起きてお客様にご迷惑をおかけすることがあります。その時に即アクションを起こし、早期に原因を特定して正しく直すことに心がけておりますが、最近の自動化・無人化の機械は更に複雑になっており、原因にたどり着くまでの時間が思いの外かかったりします。それ以前に不具合を起こさないことが重要です。そのためには、設計から組み立てまで各段階で必要な確認や検査を実施し、単に漠然と作業するだけでなく、何ゆえの機能かを正しく理解した上で作業する、各自のものづくりの勘どころ・気づきが鍵となります。これを養うには、単に教育として上位者から一方通行で教えるのではなく、訓練として教えられた方が、実際にどこまで理解しているか自身でやってみた結果の確認が重要です。どうも教育の時間は割いているが、しっかり理解しているかの確認作業の訓練の時間が不足しているように思われます。本年からこれまで以上にここに重点を置いて全社を挙げて実践的な活動を実施して参ります。

新年に当たり、引き続き選ばれる理由にこだわってお客様のご期待に応えられるよう精一杯努力して参ります。

# お知らせ

## 1 令和5年度 松浦機械製作所暦

(■は休日)

1							2							3							4						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					26	27	28					26	27	28	29	30	31		26	27	28	29	30	31	

5							6							7							8						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					25	26	27	28	29	30		25	26	27	28	29	30	31	25	26	27	28	29	30	31

9							10							11							12						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7	1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14	8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21	15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28	22	23	24	25	26	27	28
29	30	31					29	30	31					26	27	28	29	30	31	24	25	26	27	28	29	30	

## 2 令和5年度 マツウラスクール開催日程

開催予定月	日 程	スクール内容
1月	17日(火)～20日(金)	基礎コース
2月	7日(火)～9日(木)	5軸加工コース
3月	7日(火)～9日(木)	高速・高精度コース
4月	4日(火)～6日(木)	5軸加工コース
5月	9日(火)～12日(金)	マクロコース
6月	6日(火)～8日(木)	5軸加工コース
7月	4日(火)～7日(金)	基礎コース
8月	1日(火)～3日(木)	5軸加工コース
9月	5日(火)～7日(木)	高速・高精度コース
10月	10日(火)～12日(木)	5軸加工コース
11月	7日(火)～10日(金)	マクロコース
12月	5日(火)～7日(木)	5軸加工コース

※対面で実施予定ですが、今後の感染状況に応じてオンラインに変更となる可能性があります。  
 ※お申し込みは各営業所までお願いします。  
 ※日程や内容は予告なく変更となる場合がございます。お申し込みの際にご確認下さい。

## 3 地域学生への会社見学を実施

マツウラでは地域学生へのキャリア教育支援の一環として、会社見学を常時受け付けております。10月から12月は中学、高校、高専など計8校にご来社頂きました。



福井高専の校外学習では同校OBの統合物流本部 竹内裕樹さんが講師として登壇しました



校外学習の様子  
足羽第一中学校



森田中学校では2日間の職場体験を実施



## 本号の書き終わり

\* 10月度の工作機械受注額は1,411億円(前月比94%)と10月としては過去2番目の受注額でしたが、前年同月比では24か月ぶりに減少しました。内需は446億円(前月比85%)とJIMTOF直前の買い控えもあって前月比で減少しています。外需は965億円(前月比98%)と単月として過去12番目、10月度として過去2番目となっており、依然高水準の受注が続いています。北米では、展示会の効果が継続しているアメリカにおいて、2ヶ月連続で270億円を超え、好調に推移しています。

\* 昨年末、厚生労働省が表彰する「職業能力開発関係厚生労働大臣表彰」において、当社が技能検定関連の優良事業所として表彰されました。今回、表彰を受けることとなった理由は、長年にわたり技能検定を受検し合格者を輩出していること。毎年、実技試験会場や設備等を提供し、技能検定委員を務めるなど、技能検定の円滑な実施に積極的に協力し、技能検定制度推進に貢献していること。これら2点が主な理由として福井県の推薦を受けて表彰に至りました。技能検定は、長年培ってきた技能を伝承する手段の1つとして当社において重要な役割となっています。今後も品質向上を目指し積極的に

に技能検定に挑戦いたします。

\* 昨年末より街中でリクルートスーツ姿の学生をよく見かけるようになりました。政府による就活ルールでは3月に採用広報解禁ですが、インターンシップやオープンカンパニーといった企業を知る機会が学生、企業双方にとって一般化しています。コロナ禍が始まってからオンラインのインターンシップが主流となってきましたが、学生に聞くと本命の企業には、やはり対面で企業とコミュニケーションを取りたいとのこと。オンラインで手軽にコミュニケーションを取れるようになった今、対面(リアル)の重みが変わってきたように感じます。

本年も引き続きご愛読いただきますようよろしくお願い申し上げます。